

CUS-01

NTTドコモが挑んだデータ基盤の モダナイゼーション ～システムが足枷にならない意識改革と基盤～

日影 浩隆

株式会社NTTドコモ
情報システム部 データ基盤担当 担当部長



© 2022, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.

本セッション資料や記載内容については一切の転用を禁止しております

Agenda

データ基盤が抱えていた問題

クラウドシフトへの挑戦

クラウドシフトのその先に

実現に向けて気をつけたこと

まとめ

保有するデータを想像するために

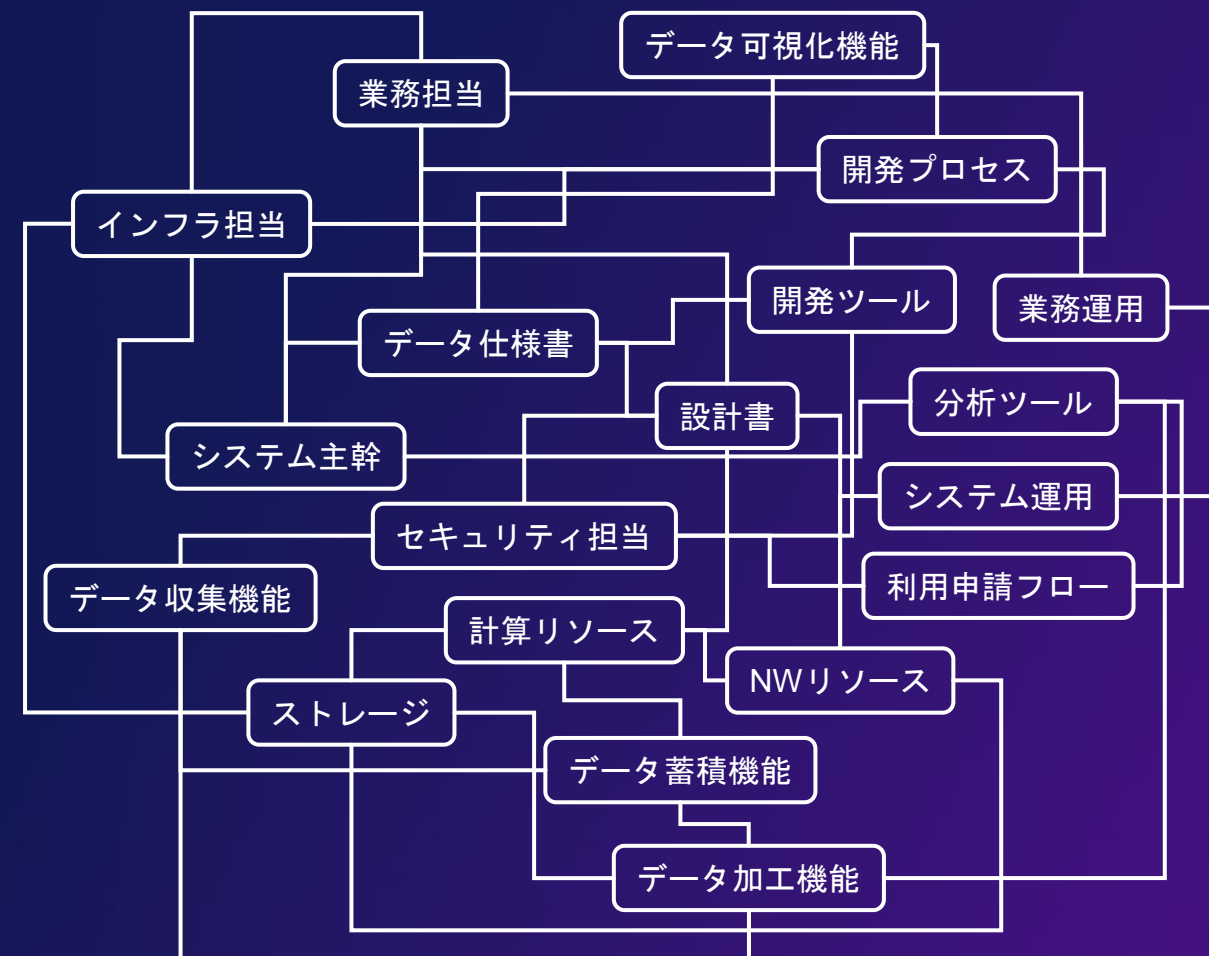
dポイントクラブ会員	8,721万会員
dポイント利用	2,034億ポイント
d払いユーザ数	4,165万ユーザ
決済・ポイント利用可能箇所	387万箇所
携帯電話契約数	8,385万契約

2021年度第3四半期決算資料

抱えていた問題点

- サーバネックがあらゆるネック
- データ増加に対応できない
- 最新ツールが使えない
- データ項目集が古い、不十分
- 障害のリカバリも長時間
- . . .

あらゆるものが一体化され、
互いに影響しあっていた



クラウドシフトのコンセプト

お客様/業務を360°
可視化・分析できるデータ

One to One
コミュニケーションの進化

働き方改革と生産性向上を
両立させる
スマートワークの進化

データ分析・活用の民主化

利益に貢献するためのシステム

データを扱う責務を全うするシステム

利用可能な社内外データの拡充

柔軟な高度分析・活用環境の提供

分析・可視化の素早さ/ユーザビリティ向上

リアルタイム連携の導入

変化に適応できるアーキテクチャの実現

非機能要件/SLAの明確化

セキュリティの堅守、プライバシーの保護

データマネジメント基盤の整備

お話を聞いていただくためのキーワード

Decoupling

クラウドシフトでこだわったこと
完成のゴールだけではなく、設計者の意識の変革

Mesh

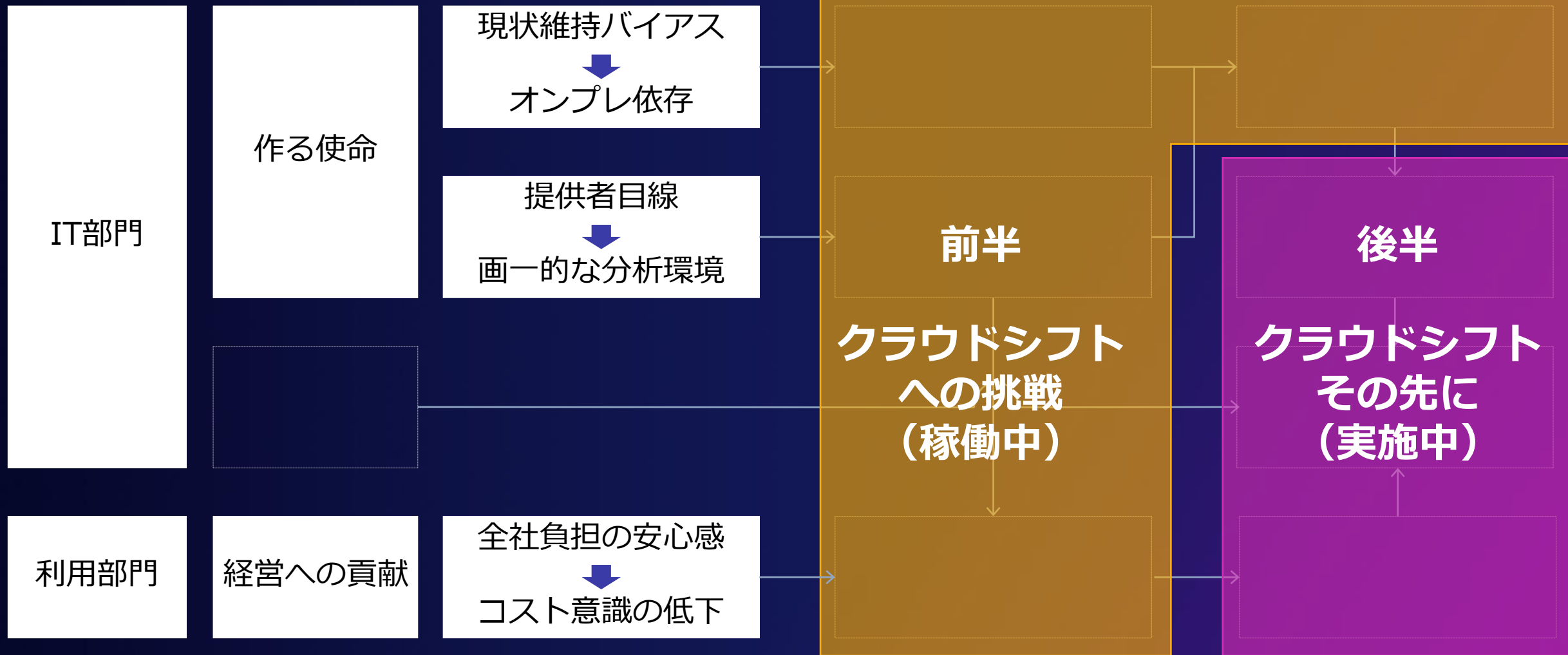
クラウドシフトの先に見えてきたこと
自由と責任（コスト）をバランスすることの意義

お話の流れ

課題認識

Decoupling

Mesh

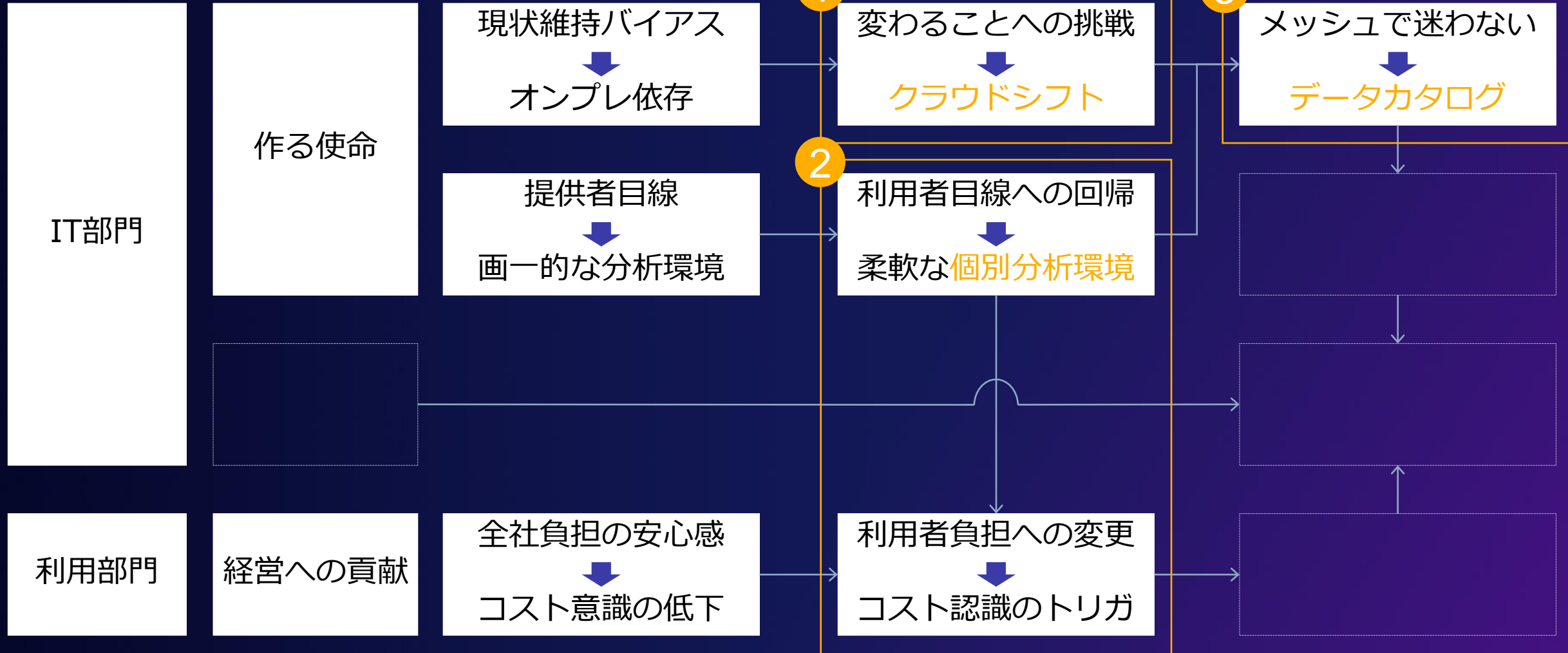


クラウドシフト

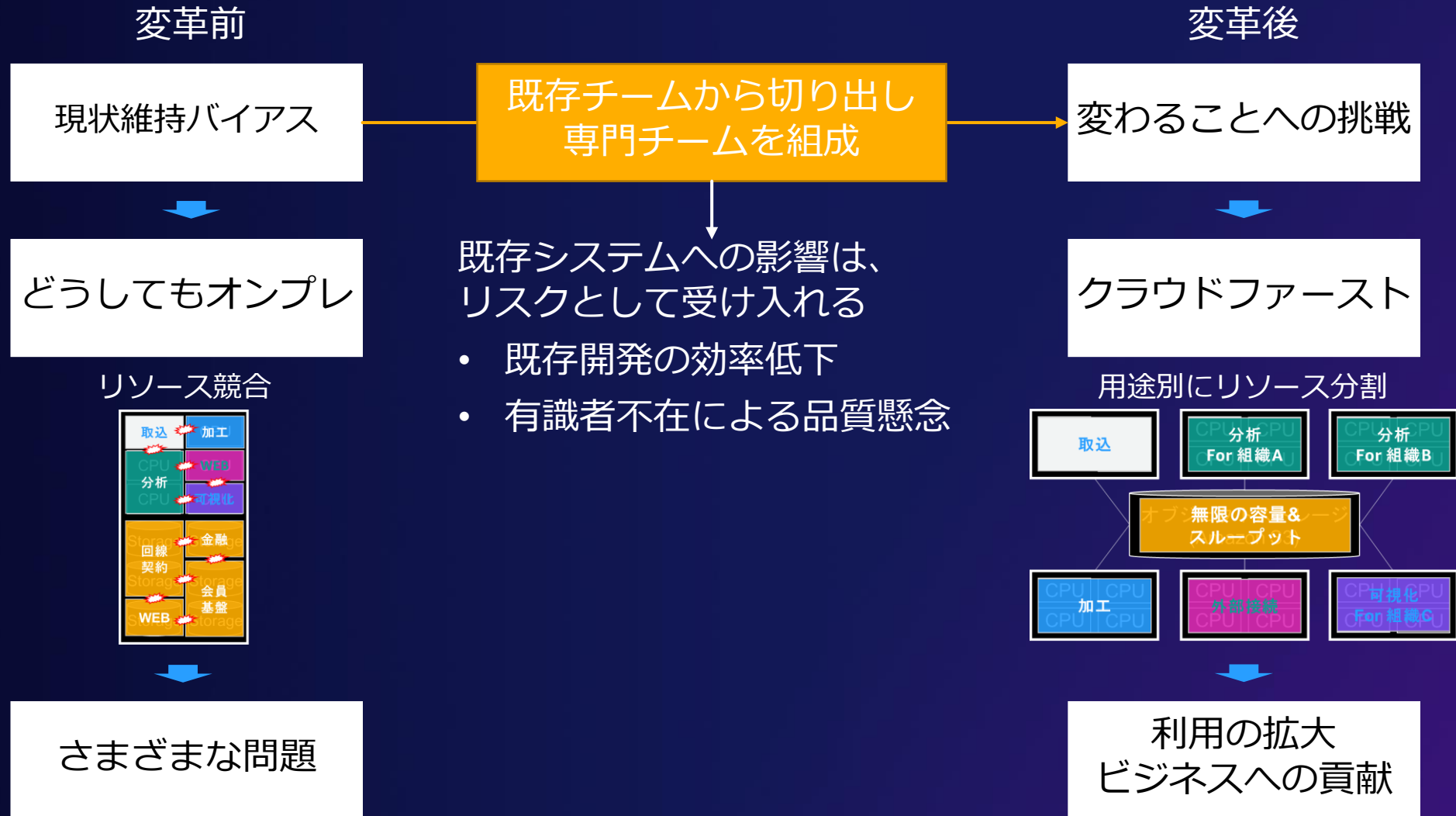
課題認識

Decoupling

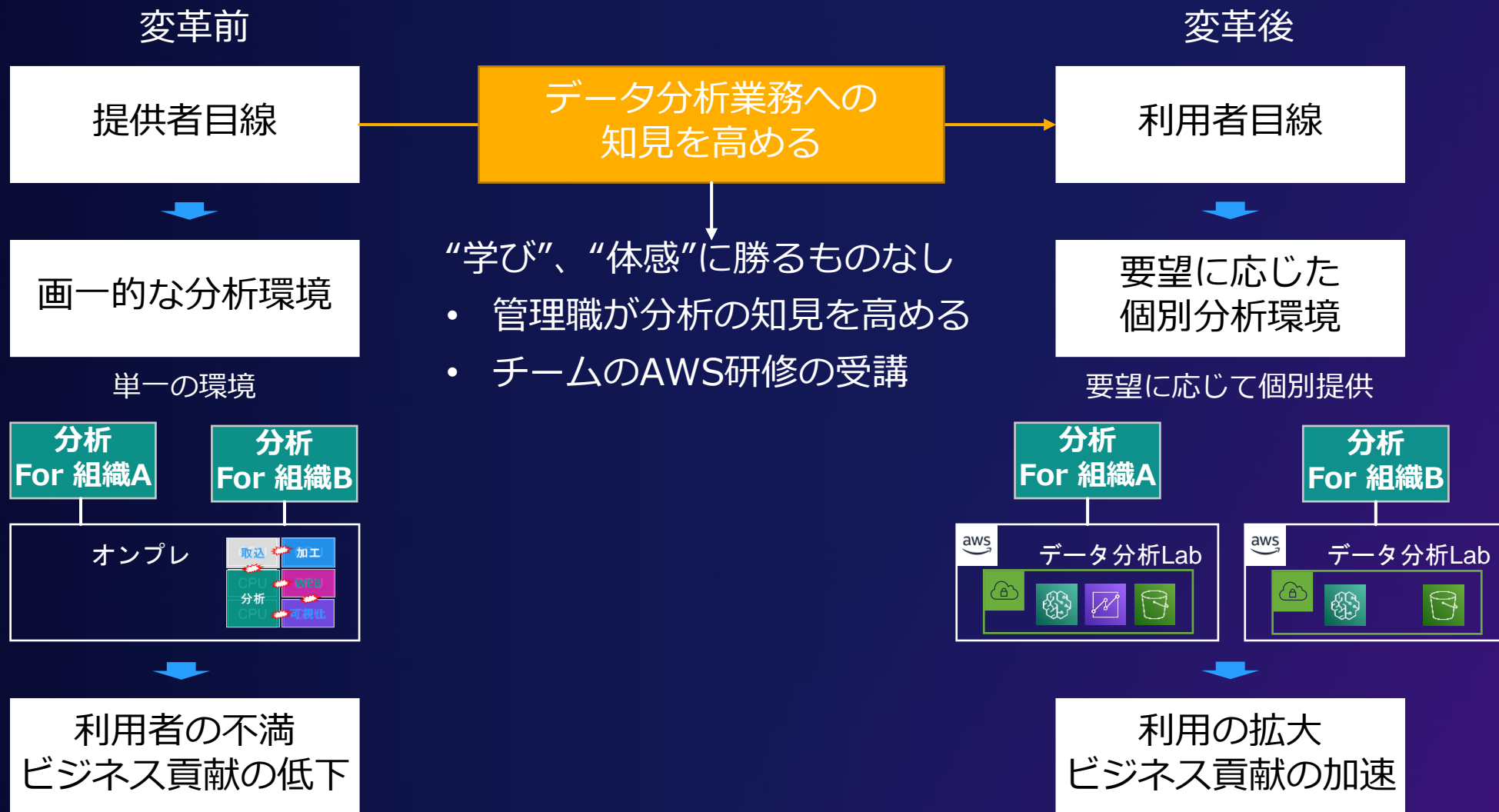
Mesh



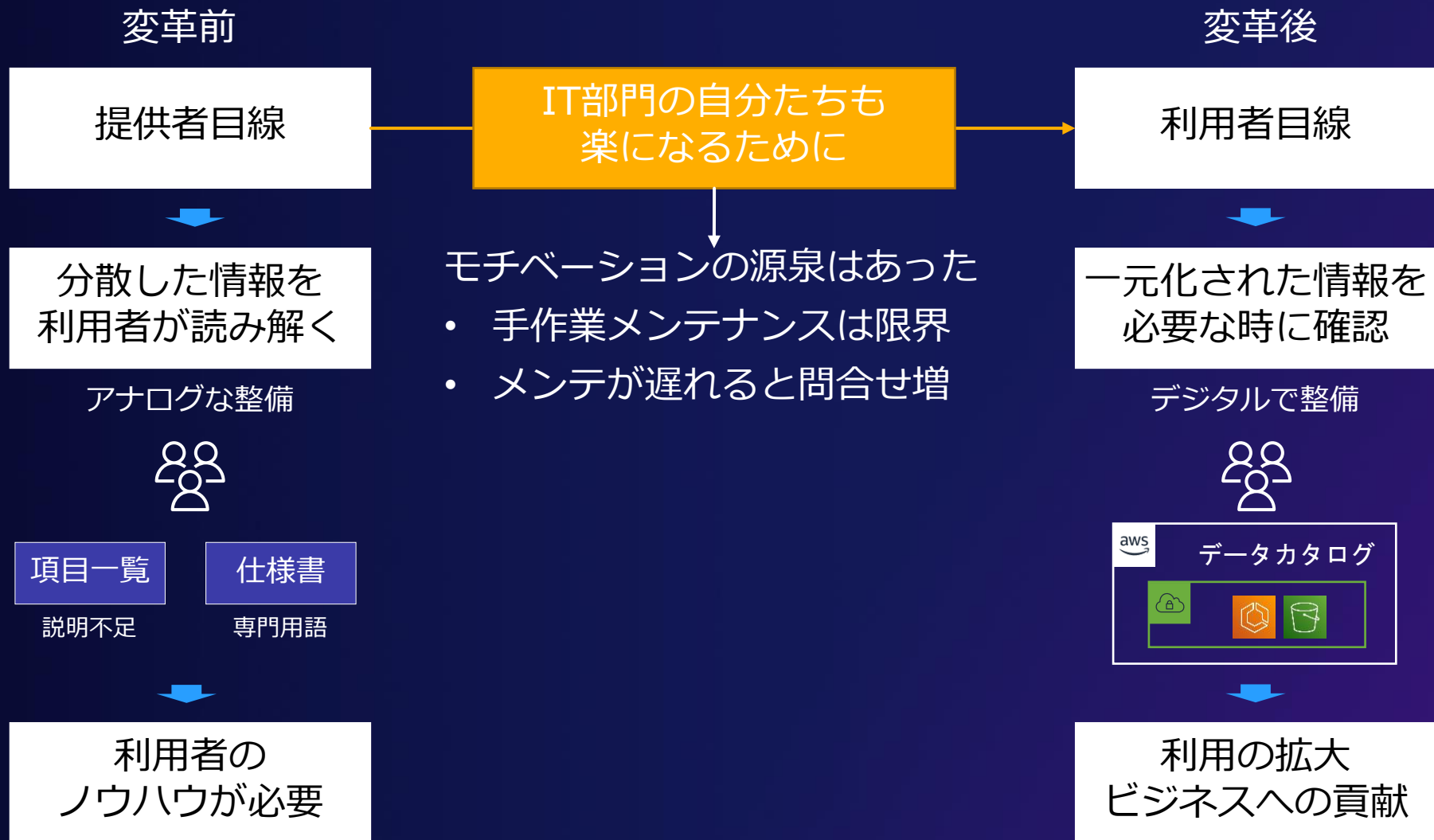
Decoupling¹ クラウドシフト



Decoupling 2 個別分析環境

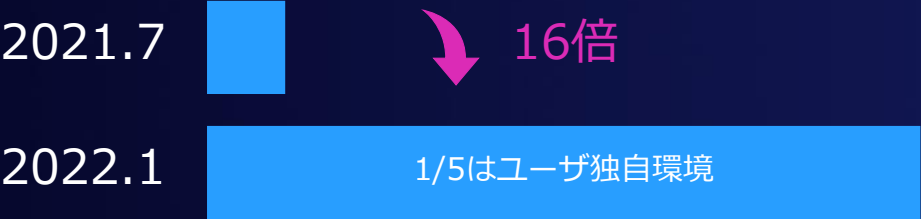


Mesh³ データカタログ

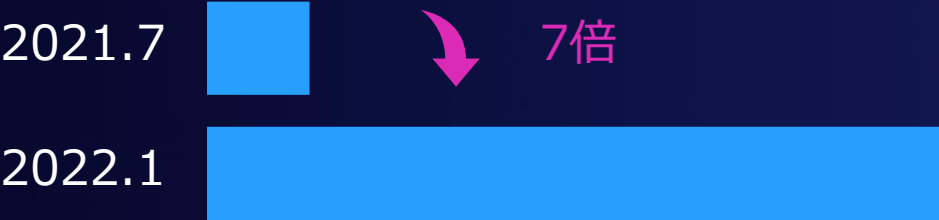


新基盤の効果

個別分析環境

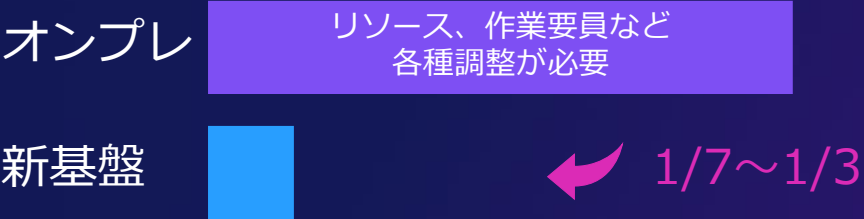


アカウント数



KPIとして提供期間を設定し現時点では達成中

データ補正のリカバリ時間



環境提供までの工数



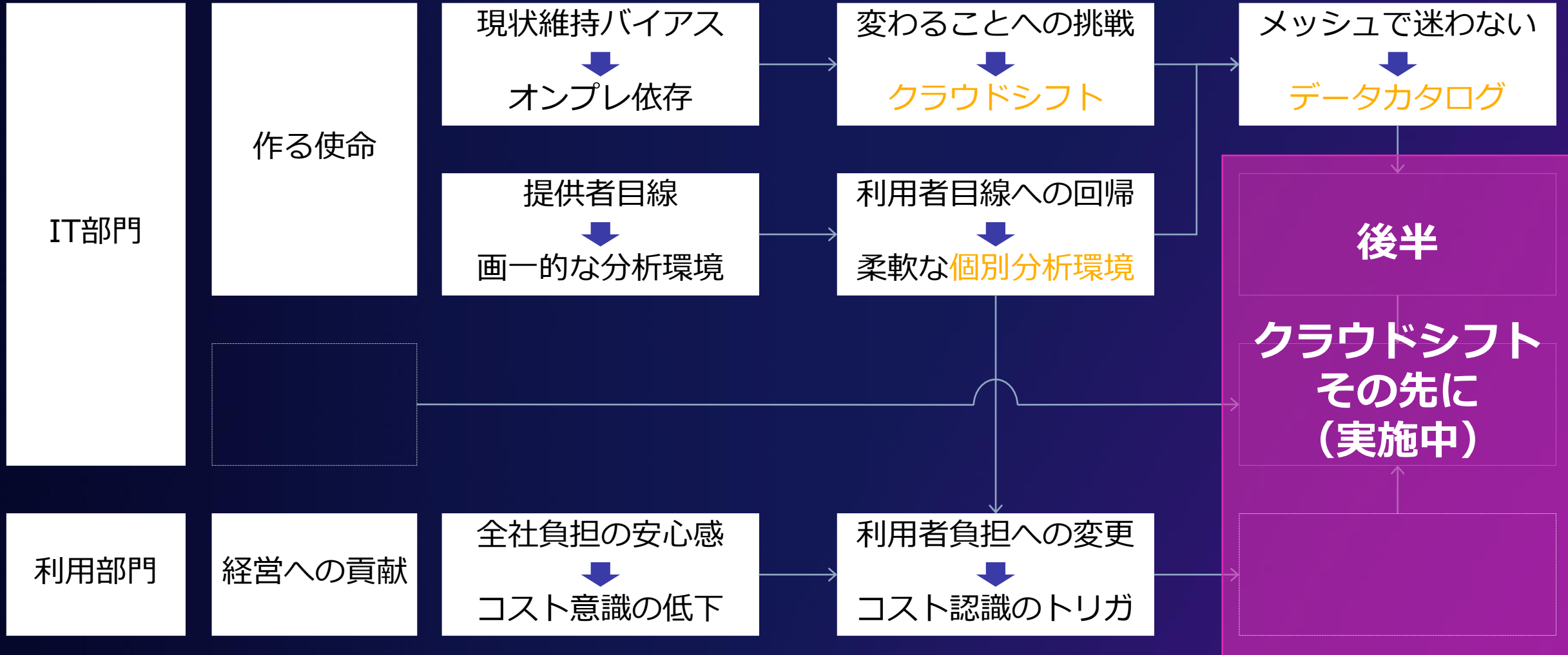
IT部門の時間・工数を削減し価値創造の検討にシフト

お話の流れ

課題認識

Decoupling

Mesh

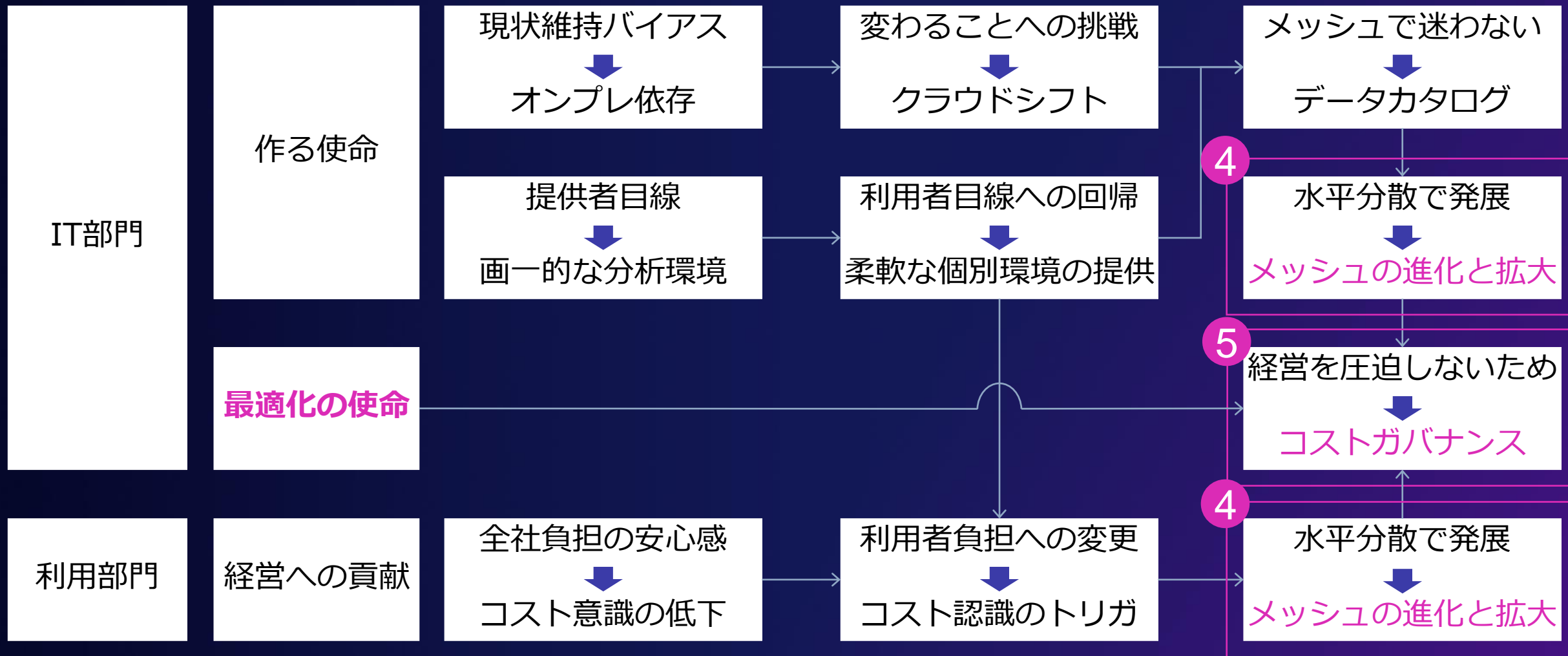


クラウドシフトのその先に

課題認識

Decoupling

Mesh



Mesh 4 メッシュの進化と拡大

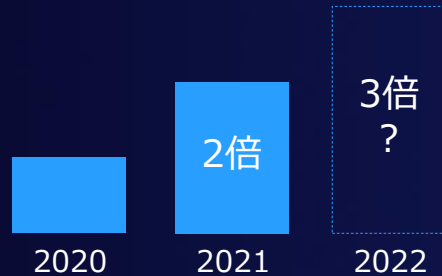
シフト後に表出

IT部門が主体の開発



IT部門の
ボトルネック

案件数の推移



開発ネックによる
ビジネス機会損失

クラウドリフトが
オープンマインドへ

オープンマインドは自然発生

- データガバナンスは保持できる
- クラウドで接続も容易にできる
- 利用者側のニーズもある

現在取り組み中

利用者側も開発



利用者側への
水平分散

利用者も整備



ビジネスに合わせた
さらなる柔軟性

Mesh 5 コストガバナンス

シフト後に表出

利用者の急増

利用料の高騰

アカウント数の推移



経営への圧迫

メッシュで拡張すると
コストリテラシーが重要

コスト意識は時代の流れ

- クラウドはやっぱり便利
- しかし一歩間違えば想定外の費用
- クラウドは利用フェーズが大事
- コストガバナンスはスキルになる
- IT部門もユーザ部に任せずに自ら意識改革

現在取り組み中

コストガバナンスが
新たなミッション

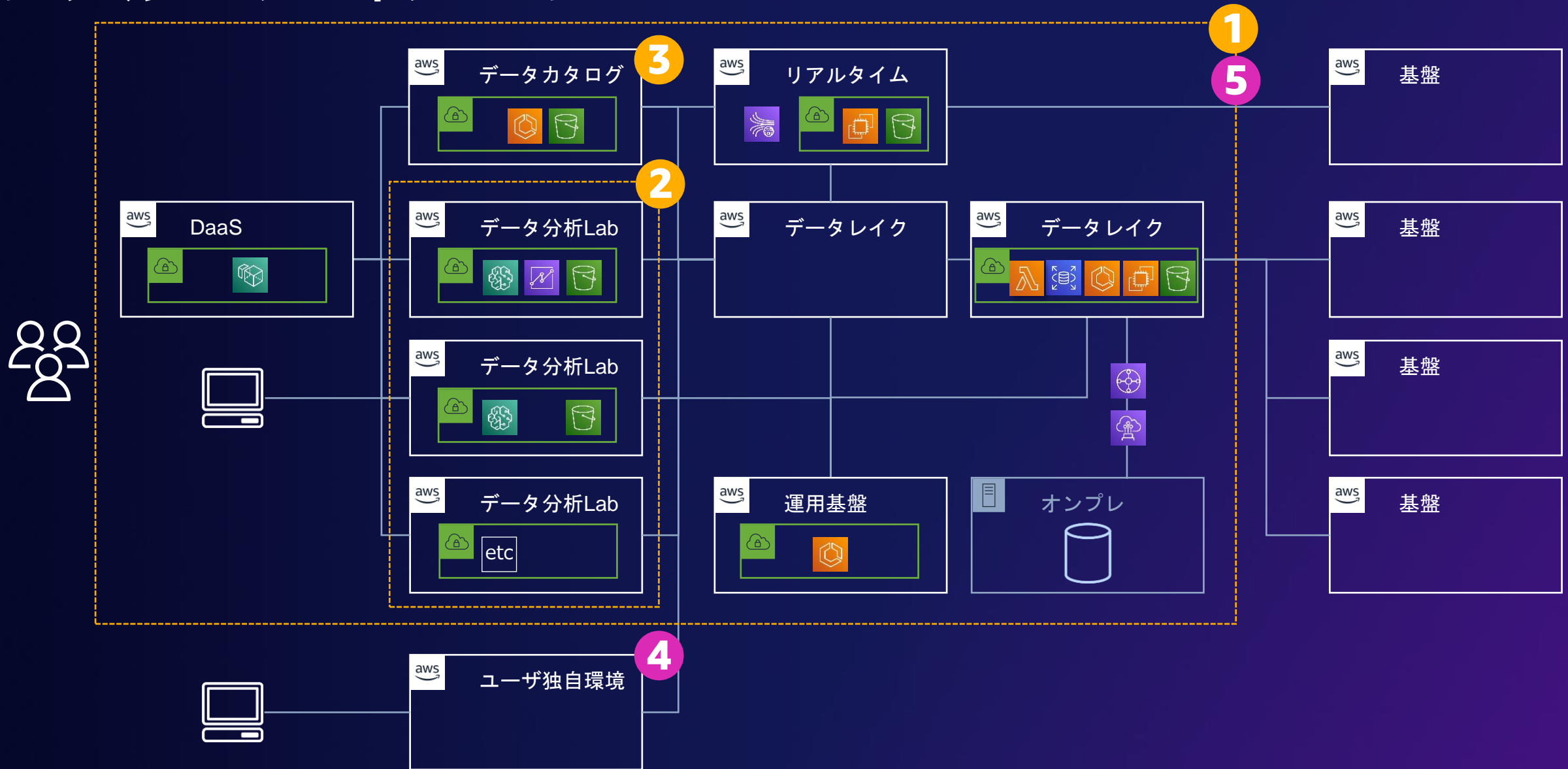
利用料の適正化
IT・利用者の教育

IT部門・SIerの意識改革



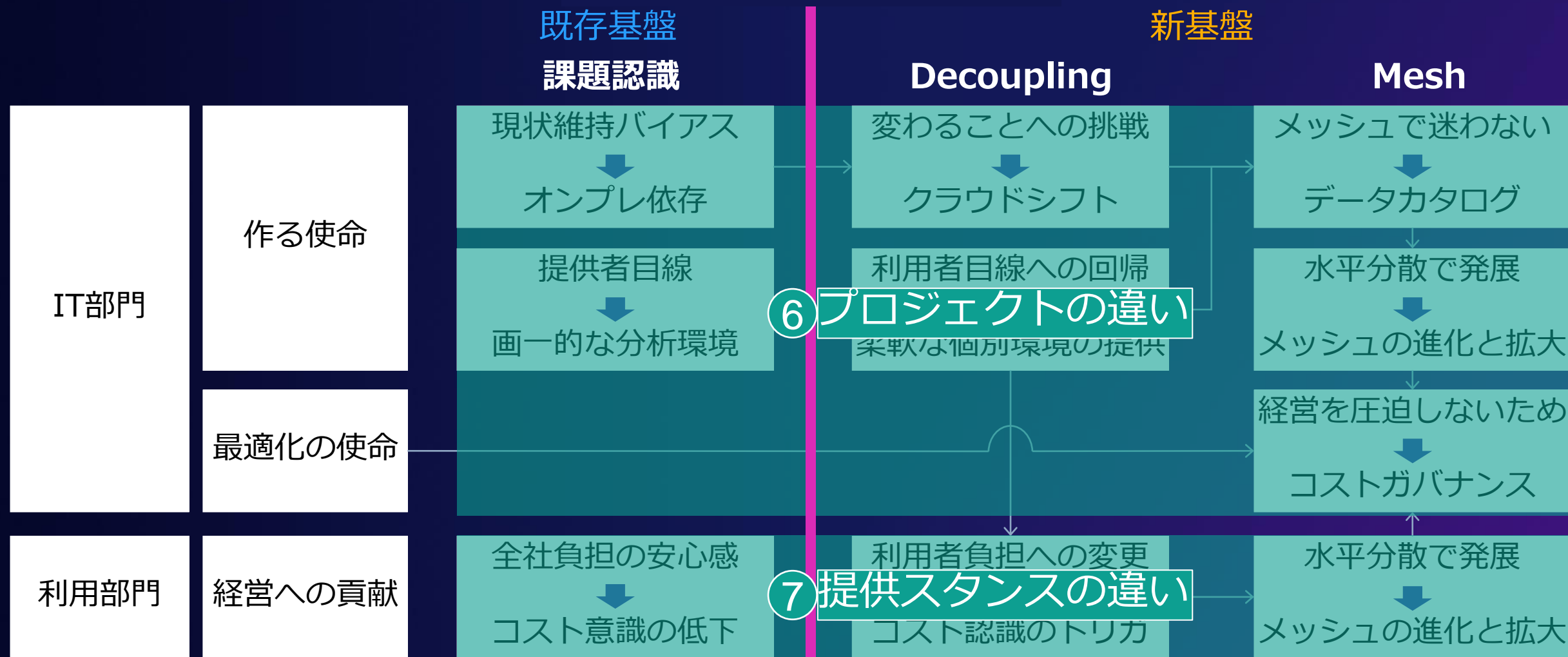
経営への貢献を
適切な費用で実現

システムのイメージ



実現に向けて気をつけたこと

アプローチを変える



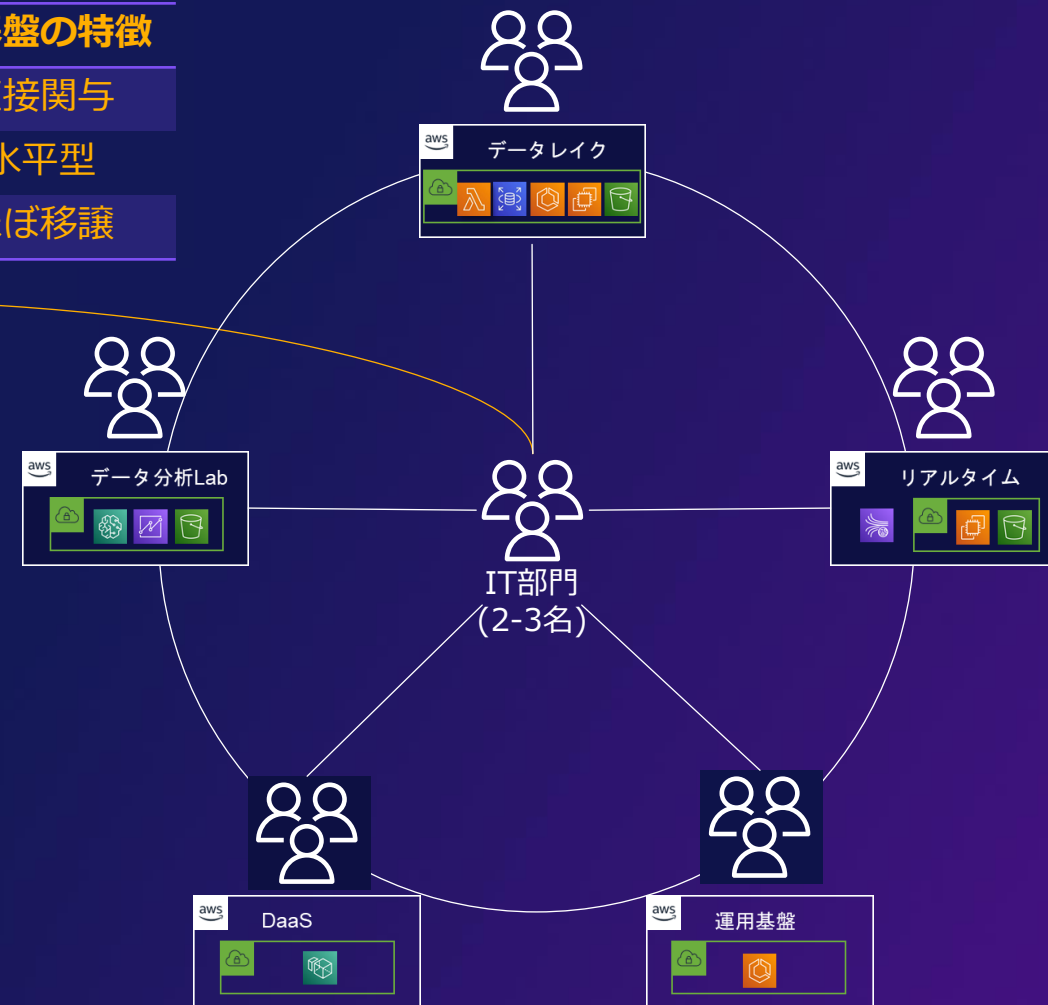
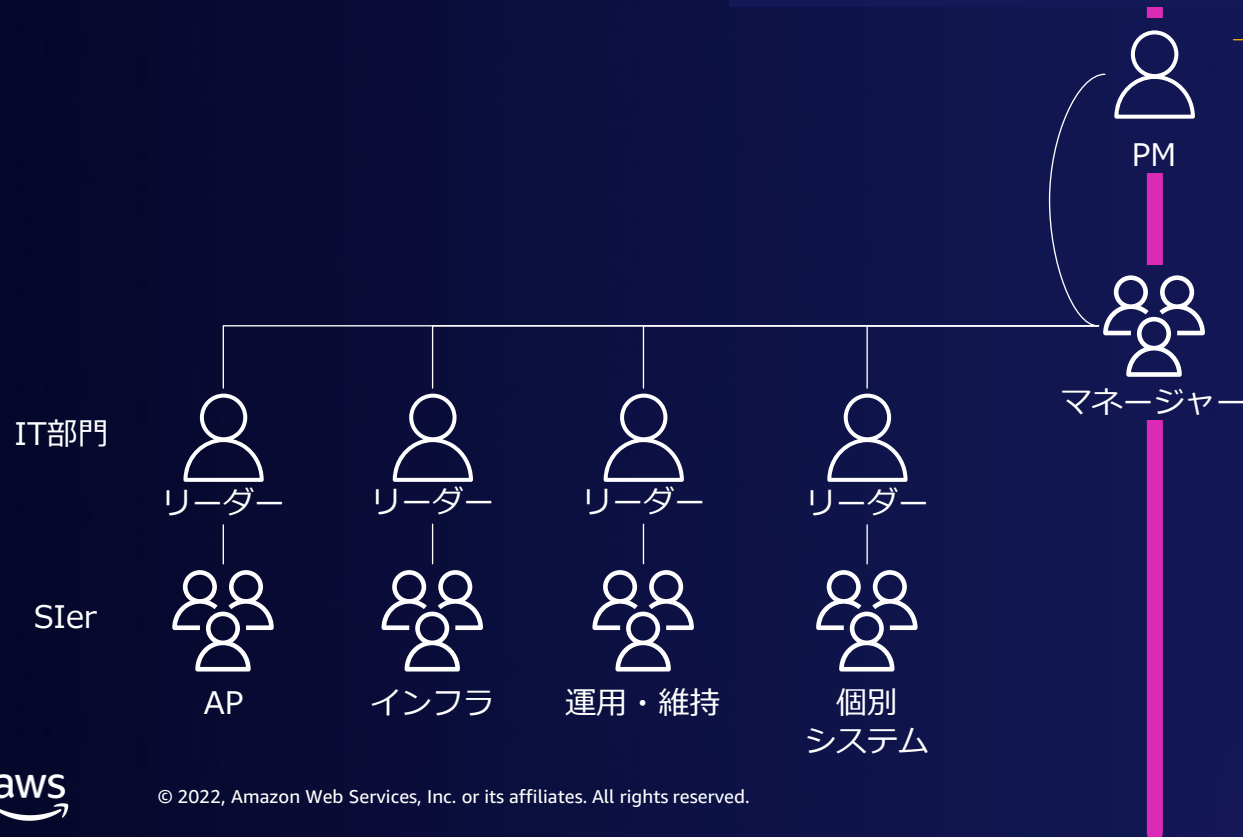
6 プロジェクトの違い

既存基盤

業務の完全分離

新基盤

既存の特徴	区分	新基盤の特徴
間接関与	PMの関与	直接関与
階層型	組織体系	水平型
上位傾向	判断権限	ほぼ移譲



7 提供スタンスの違い

既存基盤

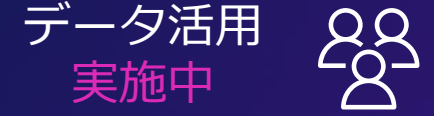
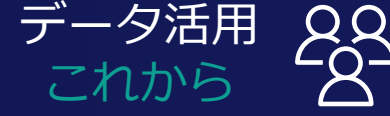


IT部門が提供する
分析環境を利用

単一メニュー

パターン	構成	
構成案A	etc	

新基盤



社内研修を
おすすめ

IT部門が提供する
個別の分析環境を利用

ユーザ部門が
独自で分析環境を構築

選べるメニュー

選べる分析環境
(バリューセット)

パターン	構成	利用額イメージ
構成案A	 	毎月〇万円
構成案B		毎月〇万円

選べる接続方式
(アラカルト)

パターン	構成	利用イメージ
直接参照		都度
S3		時次、日次など

まとめ

Decoupling

- システムを作る人の意識



- クラウドシフト

Mesh



- システムを分離し相互に連携
- 分散しても一元化すべきもの



- 分散するからこそ、やれること、考えること

現状維持バイアス
↓
オンプレ依存

モダナイズへの挑戦
↓
クラウドシフト

利用者目線への回帰
↓
柔軟な個別環境の提供

メッシュで迷わない
↓
データカタログ

水平分散で発展
↓
メッシュの進化と拡大
↓
経営を圧迫しないため
↓
コストガバナンス

≡

経済産業省 DXレポート2.1

企業が競争上の優位性を確立するには、常に変化する顧客・社会の課題をとらえ、「素早く」変革「し続ける」能力を身に付けること、その中では ITシステムのみならず企業文化(固定観念)を変革することが重要

≡

企業は協調領域については、自前主義を排し、経営トップのリーダーシップの下、業務プロセスの標準化を進めることで SaaSやパッケージソフトウェアを活用し、貴重なIT投資の予算や従事する人材の投入を抑制すべきである

クラウドシフトにより、確かに競争力を得られます

Thank you!

日影 浩隆

株式会社NTTドコモ
情報システム部 データ基盤担当 担当部長

